

## 東京2020パラリンピック聖火リレーに係る区の実績報告について

5月の本委員会で報告した取組について、実施した内容を報告する。

区では、ものづくりのまちという特徴を活かして、大田工業連合会青年部の協力により採火器具を製作し、種火を採火した。火は、東京都及び全国の集火式を経てパラリンピック聖火となり、開催都市での聖火リレーを経てオリンピックスタジアムに届けられた。なお、パラリンピックにおいても都内の聖火リレーの公道走行は中止となった。

### 1 採火器具の製作

採火に使用する器具の製作を大田工業連合会青年部へ依頼した。設計や盤面を立体に加工するヘラ絞り、板金加工、溶接など、それぞれの技術を得意とする8社の協力により完成した。

#### (1) 制作を依頼した採火器具

- ・凹面鏡（おうめんきょう）
- ・点火棒



製作いただいた採火器具

### 2 パラリンピック聖火の誕生まで

#### (1) 種火の採火

8月10日、平和の森公園愛し子の像前で、ギリシャのアテネで行われるオリンピック聖火の採火方法と同様に、凹面鏡を用いて太陽光から火を採った。

採火は、区長と製作に携わった区工連青年部の5名が立会い行われた。



凹面鏡による採火の様子

## (2) 採火式

8月20日午前、区役所本庁舎前で事前に採っていた種火を、区長が「大田区の火」として宣言した。同日、採火器具と「大田区の火」を本庁舎3階で展示した。



採火式の様子

## (3) 都内及び全国集火式

8月20日昼、都庁で都内集火式が行われ、都内62区市町村の火が集められて「東京都の火」となった。分火した「東京都の火」は同日午後の本庁舎3階で展示した。また同日夜には、迎賓館赤坂離宮で全国集火式が行われ、全国から集められた火とパラリンピックの原点となる競技が行われた地の英国ストック・マンデビルからの火を合わせ、パラリンピック聖火が誕生した。

## (4) パラリンピック聖火リレー

開会に向けて開催都市である東京都で聖火リレーの走行が予定されていたが、公道走行が中止となったため、セレブレーション会場で点火セレモニーのみ実施となった。なお、区内での走行はなかったが、下記日程で開催された点火セレモニーに区ゆかりの聖火ランナーが参加した。

8月20日（金）美谷島ももかさん（スポーツクライミング）

8月21日（土）ROJER（ロジャー、ダブルダッチのチーム）

## 3 動画の制作

町工場が取組んだ採火器具の製作から、平和の森公園で採火をするまでの様子を収めた動画を制作し、YouTube 大田区チャンネルで公開している。

タイトル

「東京2020パラリンピック聖火リレー

～区内の町工場が製作した採火器具で大田区の種火を採火しました！～」

収録時間 8分33秒

公開日 8月19日（木）



動画の一場面